

第12期 第3回 豊中市廃棄物減量等推進審議会 議事録

【日 時】令和3年(2021年)8月26日(木)14時00分から15時30分まで

【場 所】WEB会議(豊中市立中央公民館1階集会場)

【出席委員】渡邊委員 花嶋委員 小島委員 國分委員 西村委員 日名委員 下村委員
高島委員 中澤委員 吉田委員 遠藤委員 米田委員 榊原委員 重長委員

(15名中14名出席:有効に成立) _____は、WEB参加

【傍聴者】1名

【事務局】糸井、甫立、道端、立谷、溝口、吉村、澤田、永富、渡邊、北野、内田、鈴木、池田、
豊田、中村、藤田 _____は、WEB参加

【オブザーバー】飯野(豊中市伊丹市クリーンランド)

【配付資料】

- ・第12期第3回豊中市廃棄物減量等推進審議会(WEB会議)議事次第
 - ・第12期豊中市廃棄物減量等推進審議会委員名簿
 - ・一般廃棄物の減量の促進及び適正処理に関する事項等について(諮問) (資料1)
 - ・令和3年度(2021年度)第12期豊中市廃棄物減量等推進審議会審議日程について (資料2)
 - ・「第4次豊中市ごみ減量計画」の進行管理について (資料3-1)
 - ・令和2年度(2020年度)事業等報告書(速報版)(案) (資料3-2)
 - ・「豊中市食品ロス削減推進計画」の策定(骨子案)について (資料4)
- 参考資料
- ・ごみと再生資源の分け方・出し方 早わかりガイド
 - ・WEB会議用挙手用紙等

1. 開会

2. 出欠確認

本日の会議は公開とする。傍聴希望者は1名である。委員15名の内、14名が出席のため過半数に達しており、審議会規則第6条により本日の会議は有効に成立している。

3. 会議録署名委員の指名

議事録署名委員については、下村委員と榊原委員に担当していただく。よろしく願います。

4. 諮問

※糸井部長より諮問

諮問文について、事務局より説明

5. 報告

案件 「令和3年度(2021年度)廃棄物減量等推進審議会審議日程」について

資料2に沿って事務局より説明

6. 審議

案件 「第4次豊中市ごみ減量計画」の進行管理について

○会 長

それでは審議案件に入る。案件「第4次豊中市ごみ減量計画」の進行管理について事務局から説明をお願いする。

○事務局

- ・「第4次豊中市ごみ減量計画」の進行管理について 資料3-1に沿って説明
- ・令和2年度（2020年度）事業等報告書（速報版）（案） 資料3-2に沿って説明

○委員

様々な取組みを実施されていると感じた。事業系ごみ排出実態調査について、ごみの組成のうち紙類の割合が多いようだが、リサイクルされたものも含まれているのか、それとも単純に可燃ごみとして出されたものなのか。

○事務局

全業種平均のごみ組成詳細は、ごみとして排出されたものであり、資源としてリサイクルされたものは含んでいない。リサイクル可能な紙類が、ごみの中に多く含まれている状況である。

○委員

まだまだリサイクルできる紙が捨てられている、ということである。さらにリサイクルを進めるためには、事業者が取り組みやすい仕組みの構築が望まれる。

○委員

事業系ごみ量が令和2年度時に令和9年度の目標を達成しているが、さらに高い目標を掲げるのか。

○事務局

令和2年度の減少については、コロナ禍により事業活動が鈍化したことによると思われる、今年度4月からは増加傾向となっている。来年度の中間見直しにあたっては、それらの状況を考慮して目標値を検討する。

○会長

今年度は事業系ごみが増えているので、中間見直しは、慎重に検討する必要がある。

○委員

ごみの焼却処理量の審議会からの評価案には、「コロナによる一時的な減少であることが想定される」とあるが、家庭系ごみの増加と事業系ごみの減少との差し引きで減っていると考えてよいのか。

○事務局

その通りである。家庭系ごみは総量、1人1日当たり量共に増えているが、事業系ごみが大幅に減少したため、全体としては減少となっている。

○委員

どのような紙類を資源ごみに出してよいのか分からず、可燃ごみとして出している人も多い。以前、住んでいた地域では、案内チラシをいただき役に立った。分別方法をより分かりやすく周知する必要がある。

○会 長

家庭系も事業系も紙類が、リサイクルルートに乗るように周知する必要がある

○委 員

多くの紙ごみは分別すればリサイクルできるが、手間がかかる。集団回収では報奨金も出るが、自治会・子供会の解散や会員の減少、新聞ばなれ、重量のある古紙は高齢者が出しづらいなど制度運営にとって厳しい状況である。分別が分からない市民もいるため、まずは、しっかりと周知を進めていただきたい。

○委 員

ごみと再生資源の分け方・出し方の早わかりガイドに、紙と古布は紙袋と紐で出すように記載されている。現状では紙袋も手に入りにくいので、つい可燃ごみに出してしまう。古紙は市の指定ごみ袋に入れて出してもよいのか。出してもよいのなら、分かるように記載していただきたい。

○委 員

それに関連し、紙袋がない時に雑紙を段ボールに詰めて出したことがあるが、よかったのか。

○事務局

紙類は、市の指定ごみ袋や段ボールの中に入れて出していただいても構わない。

○委 員

早わかりガイドにも、そのことをわかるように記載いただけると、分別しやすいのではないかと。

また、可燃ごみの欄に、「紙、布で出せないもの」との記載があるが、何が出せないか、具体的な注意書きがあればわかりやすいと思う。絵だけではわかりづらいので、是非コメントでも示してもらえるとありがたい。

あわせて、プラスチック容器包装は、食品が付着して汚れているごみは、可燃ごみと考えているが、どこまでが許容範囲か知りたい。

○事務局

紙コップや感熱紙、臭いのついた洗剤の空き箱などは、リサイクルが出来ず可燃ごみとなる。お菓子の袋等は、軽くゆすいでいただければプラスチック製容器包装として排出できる。

○委 員

それならカップ類と同様に、袋・外装フィルムにもその旨のコメントを記載する方がよい。

○委 員

早わかりガイドには、すすいでも汚れが落ちないプラスチック容器包装は可燃ごみとあるが、中身が残ったままのものも可燃ごみと記載してはどうか。

また、家庭用ガスボンベや炭酸ガスボンベを国内で製造している2社のうち、1社は自社で回収している。そのようなことを周知すれば、ごみの減量も進むだろう。

○会 長

早わかりガイドは、毎年更新しているのか。ガスボンベやリチウムイオン電池による火災事故など、最新の話題を盛り込むという観点では、毎年とは言わずとも、2年に一度くらい改定してはどうか。市民もよく目にすると考える。

○事務局

早わかりガイドは概要版として作成したもので、詳細は「ごみと再生資源の分け方・出し方」の本誌に掲載している。早わかりガイドの毎年度の改定は予定していないが、改定時には、いただいた意見を参考に追記等を検討する。

○委 員

事業系ごみの減量マニュアルは、どのようなルートでどの程度の頻度で配布しているのか。

○事務局

事業系ごみの減量マニュアルは、平成27年度に改定し、市内事業所15000事業所に配布している。内容として、リサイクル可能な紙の種類や事業活動で取り組めるごみの減量、リサイクルなどについて紹介しており、特に雑紙のリサイクルが進めば、ごみの減量に繋がると期待している。これらは、市のホームページにも掲載しており、事業者の方は閲覧できるようにしている。今後は、令和4年度に改定し、市内事業所に配布する予定である。

○委 員

今回の資料（事業等報告書（速報版））はしっかりと詳しく作り込まれているが、少し難しくなりすぎているようにも思う。もう少しわかりやすく、伝わりやすいものであってもよいのではないかと。いかに必要な人に必要な形で情報を届けるのか、表現方法について検討していただきたい。

○会 長

しっかりと伝えていることが分かるようするため、詳しいデータを示すのはよいが、スマートフォンが普及した現在では、スマートフォンで簡単に見られる情報、例えば20文字程度の少ない情報で見せることも必要である。また、情報を見せないことも情報である、といった視点が必要である。

○事務局

わかりやすい情報発信の一環として、市ではYouTubeの配信も行っており、視聴回数は複数の動画の延べで10万回を越えている。今後も、YouTubeなどSNSを活用し、ごみ減量の進捗状況や分別方法などについて、より分かりやすく、より幅広く周知していきたい。

【審議案件】「豊中市食品ロス削減推進計画」の策定について

○事務局

資料の訂正について…P13 事業系ごみ排出実態調査 ごみ組成詳細の紙類 33.5%から35.2%に修正
「豊中市食品ロス削減推進計画」の策定（骨子案）について説明

○会 長

今回は骨子案であり、具体的な計画案の審議は11月ということでよいか。

○事務局

その通りである。

○会 長

策定の前段階として、このような要素があればよい、このような疑問がある、など食品ロスについてご意見を頂きたい。これまでに、市民アンケート等で食品ロスが出る理由を聞いたことはあるか。

○事務局

市民アンケートは、平成30年度に実施している。

○委 員

計画案としてよくできているが、世界的にSDGsが謳われ、国や府も食品ロスの削減を推進しているから市でも推進する、という組立てではなく、まず豊中市として食べ物は大切にしなければいけないというところから始めてはどうか。そこから社会的、世界的な背景に繋げていくほうが、これまでも社会福祉や教育の部門と連携し、取組みを推進してきた豊中市ならではの計画として、市民に訴えるものも大きくなるのではないか。食品ロスの削減は、そういったところから始まるべきだと考える。

○委 員

便利さを追求する行動が、気候変動を招いている。日本は、食料自給率が37%程度にかかわらず年間約600万トンの食品ロスを出している。

学校給食では、食べ物を残さないようにと言えない状況であるが、食べ物の大切さを訴えられるとよいのではないか。

○会 長

子どもたちはアレルギーの問題もあり、残さず食べるという指導は難しいだろう。

国が指導するから、SDGsがあるからなどは、はじめから言わなくてよいのではないか、

なぜそのようなことをするのか、しっかりと練って示していただけるとよい。

○委 員

食品ロスは、捨てる行為に着目されがちだが、一方では食べられない人がいるという貧困の問題ともあわせて議論する必要がある。様々な視点で論点を整理しながら、多面的に食品ロスを捉えるとよいだろう。

○委 員

食品ロスを防ぐためには食べ切れればよく、昭和の時代は大根の皮も食べていたものだが、今は食べ切る方法を知らない方も多い。

豊中ゆかりの著名人、かの魯山人も「食材に食べられないところはない」と言ったと聞く。先人の知恵を用いるのもよいであろう。

○会 長

市民向けのコラムに適しているだろう。

○委 員

感情に訴えることや楽しくやる、という方が市民を巻き込みやすいのではないか。食品ロスの調査の様子を大々的に示すとインパクトがあるだろうし、リーフレットは、自ら手にする人しか見ないので、街中でポスターやのぼりなどで広報することがよいだろう。

○委 員

イギリスでの調査で、多数のキャンペーンを実施したところ、14%食品ロスが減ったとの結果があった。地理的に豊中市はコンパクトにまとまっているので、SNS など駆使して広報することも効果があるだろう。

○委 員

コープこうべでは、「てまえどり」に加えて、市と連携してフードドライブを常設している。個人宅配でも、事前告知をして、フードドライブを実施しており、多くの方に協力いただいている。

明石市での出前授業の際に、タコを調理した。タコが死んでいくときには、はしゃいでいた子どもたちも静かになった。このような形で生き物をありがたくいただくなど教育することも必要であると考え、コープこうべとしてもこのような活動を実施している。

○会 長

ただ単純に食品ロスを減らそうと広報するのではなく、先人の知恵を利用した啓発等を市内の各所で行いのがよいだろう。

文教都市としての地位も向上するだろう。YouTube も楽しいと思える範囲で進めていただきたい。

○事務局

次回の審議会は、11月頃に開催を予定している。日程については、改めて連絡させていただく。お忙しい中ありがとうございました。

6. 閉会